



第12回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。

皆様のご参加、誠に有難うございました。

記

日時：2017年 **6月1日（木） 15:00-18:00**

会場：ナレッジキャピタル カンファレンスルーム(C01)

(グランフロント大阪 タワーC 8階)

地図 → http://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc_access.html#jump

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：大阪医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「ゲノム編集技術の進歩と課題」

大阪大学・微生物病研究所 教授 伊川 正人

ゲノム編集技術とは DNA 二本鎖の切断と修復を利用した遺伝子改変技術であり、単なる遺伝子破壊だけでなく、点変異や外来遺伝子の導入など、一塩基レベルから染色体レベルで任意の遺伝子改変ができる夢のようなツールである。中でも2013年の初めに、哺乳類細胞でCRISPR/Cas9システムを用いた遺伝子改変が報告されて以来、生命科学研究分野で爆発的に利用が広がっている。特に受精卵でのゲノム編集により、遺伝子破壊・挿入（ノックアウト・ノックイン）マウスも安価で短期間に作製できることから、個体レベルでの遺伝子機能解析が飛躍的に進んでいる。本講演では、CRISPR/Cas9システムを用いたマウスのゲノム編集の実情と課題について概説する。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「インフルエンザウイルスの増殖機構」

京都大学ウイルス研究所 ウイルス微細構造研究領域 教授 野田 岳志

インフルエンザウイルスは、毎年冬に流行する季節性インフルエンザを引き起こすだけでなく、時として世界的な大流行（パンデミック）を引き起こし、私たちの健康や社会経済に大きな影響を与えます。本講演では、インフルエンザウイルスが感染細胞内で増殖する分子メカニズムに関して、特に、感染細胞から放出される子孫ウイルス粒子がウイルスゲノムを取り込む「ゲノムパッケージング機構」に着目し、最新の知見を紹介したいと思います。将来、ゲノムパッケージング機構の分子基盤が解明されることで、感染性ウイルス粒子形成を阻害する新規抗ウイルス薬開発、あるいは複数の外来遺伝子を発現するインフルエンザウイルスベクター開発につながる事が期待できます。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

【次回のご案内】

<第13回>

日時： 2017年09月15日（金） 15:00~18:00

場所： ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーB（ルーム B08）
（グランフロント大阪北館タワーB 10階）

地図：<https://www.kc-space.jp/accessmap/conference/>

<プログラム>

15:00~16:00

「腎臓の「治る」と「治らない」の境界線はどのように決まるのか」

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学 教授 柳田 素子

16:00~17:00

「人工知能で精神疾患・発達障害を再定義し治療する」

(株)国際電気通信基礎技術研究所、脳情報通信総合研究所 所長 川人 光男

17:00~18:00

交流会・名刺交換会

問合先：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村、會澤）